

●消防ヘリコプターの通年運航体制のスタートについて

消防ヘリコプターは、平成3年に導入以来、重傷者の救急搬送をはじめ、林野火災における空中消火、山岳地での人命救助および捜索、各種災害時における情報収集およびヘリTV伝送など、ヘリコプターの特性である迅速性・機動性を最大限に生かすことで、市内はもちろん道内外で発生した大規模災害にも出動し、大きな役割を担ってきたところです。

特に近年、救急分野でのニーズが高まっており、平成20年には262件の災害出動のうち178件もの救急出動をしている状況にあります。

今後は、さらなる消防航空体制の充実を目指し、新しく導入された機体をメインに、現有機については予備機として有効活用を図り、2機のヘリコプターによる通年運航体制を確立します。

1 通年運航体制開始

平成21年4月1日（水）午前8時45分～

2 新規導入ヘリコプターの概要

機種は、アメリカ製のベル412EPで、現在、消防局が使用している機体と同型機。新しい装備として、赤外線カメラを装着している。これは、煙や暗闇を通して鮮明な熱画像を得ることができるため、目視では見えにくい山林での遭難者や、広範囲に広がる火災での火勢の状況、残火の状況などを、効果的に確認することができる。（別紙資料参照）

型 式	ベル式 412EP	製 造 者 名	米国ベル・ヘリコプター・テストロン社
国籍・登録記号	JA119L	愛 称	さつぽろ
全 長	17.11(m)	胴 体 長	14.01(m)
全 幅	2.88(m)	全 高	4.78(m)
回 転 翼 径	14.02(m)	最大離陸重量	5,398(Kg)
最 大 定 員	15人（操縦士2人、客室13人）		
エ ン ジ ン	型式：PT6T-3D型（加国プラット&ホイットニー・カナダ社） 最大出力：1,800軸馬力（900軸馬力×2台）		
性 能	最大速度：259Km/h（140ノット） 航続時間：約3時間 航続距離：約600Km 【条件：全備重量、燃料満タン、各平均消費率、巡航速度203km/h(110ノット)】		
主 な 装 備	ヘリTV（可視カメラ、赤外線カメラ） ホイスト装置（隊員、要救助者のつり上げ、つり下げのためのウインチ） リペリング装置（ロープ降下用の支点） 機外拡声装置		

3 導入経費

12億1989万円（消費税込み）

うち国からの補助金 3億2758万6千円

道からの補助金 1億6000万円

4 運航記念式典

- (1) 日 時：平成 21 年 4 月 16 日（木）午前 10 時～午前 10 時 40 分
- (2) 場 所：札幌市消防局石狩ヘリポート（石狩市新港東 2 丁目）
- (3) 式典内容：市長のあいさつのほか、決意表明、記念品の配布など

5 参考（過去の出動件数と内訳）

年	合 計	火 災	救 急			救 助	危 険 排 除	搬送 人員	救出 人員
			現場救急	転院	小 計				
平成 20	262 (5)	32 (0)	178 (2)	2 (0)	180 (2)	20 (2)	30 (1)	99 (1)	23 (18)
平成 19	249 (5)	20 (0)	185 (0)	15 (5)	200 (5)	17 (0)	12 (0)	135 (5)	4 (0)
平成 18	109 (6)	12 (1)	70 (0)	7 (5)	77 (5)	15 (1)	5 (0)	55 (5)	0 (0)
平成 17	60 (9)	6 (0)	22 (2)	12 (4)	34 (6)	11 (3)	9 (0)	32 (6)	3 (1)
平成 16	89 (9)	18 (0)	28 (4)	14 (2)	42 (6)	19 (3)	10 (0)	35 (4)	4 (1)



問い合わせ先

消防局警防部消防救助課（消防航空担当）

電話 0133-62-4119

可視カメラ・赤外線カメラ



小型防振装置付可視／赤外線カメラ
(FSI社製 Ultra8500)

可視カメラ 18倍 (4倍電子ズーム)
赤外線カメラ 10倍

位置情報システム
(ヘリTV映像に載せて表示)

(映像サンプル)

